

盛況でした北小音楽発表会

1月6日(金)に音楽発表会が行われました。当日の朝、300席以上のパイプいすがきちんと並べられているのを見て、本校の児童数は260程なので、これほどの椅子が必要なのかな、と半信半疑でした。

ところが当日は、用意した椅子はほぼ全席埋まり、立ってご覧になっている方もいました。両親そろっての参観、祖父母の方々の姿も多く拝見しました。本校の音楽発表会が保護者の皆様から期待され、大きな楽しみになっていることが分かりました。心配した新型インフルエンザの流行もそれ程ひどくなく、無事、音楽発表会が実施できたことを嬉しく思います。

当日の発表では、どの学年も歌に演奏に練習の成果を発揮しました。当日、講評して下さった落合先生のことばを紹介します。ただ、先生の講評をその場でメモしましたから正確に意を伝えることの出来ない面があることをご承知下さい。発表順に紹介します。

(1) 3年生

音楽性がしっかりしていました。はじめの指導の時、選曲がやや高度で難しいかな、と思いましたが、想像以上に良くまとまっていて驚きました。とても優秀な3年生です。

(2) 1年生

世界で1つだけの洋服とても素敵です。すごく元気で、それに美しい音楽性が加わっていました。一度指導しただけでしたが、ここまで上達するとは、驚いています。こんなにきちんと出来る1年生、ちょっといいな、と思います。

(3) 5年生

高学年になり演奏する楽器の数も増え、音色がまとまり、心にしみ入る合奏でした。「この星に生まれて」は、ソプラノ、アルトのまとまりも見事で息がそろっていました。

(4) 2年生

「成長したぼくたちを見てください。」のことばにぴったりの演奏でした。「Eye・愛・Beam」は動きを入れたことがとても良かったです。柔らかい動きが柔らかい声を生みます。

(5) 4年生

4年生になると考えがしっかりしてきます。そのため歌にメロディーだけでなく気持ちを載せることが出来ます。今日の歌は宝物になりました。合奏ではメロディーが広がる楽器を上手に使っていました。

(6) 6年生

さすが北小のリーダーです。パフォーマンスも見事でした。笛やシルクハットも効果的でした。工夫することで心も豊かになります。何事もわくわくドキドキ感が大切です。「風になりたい」は、アイデアがあり、工夫があり、素敵でした。合唱が始まると一瞬、空気が変わりました。何か違うことが起きたのかな、とことばでは言い表せない、身震いするほどの感動を覚えました。

どの学年に対しても的を射た適確で温かなお誉めのことばをいただきました。最後に当日参観して下さった方々に向け次のようなお話をして下さいました。

○今日、参観した皆さんは、若々しい歌声を聞くことが出来て幸せです。うんと得をした、と思して下さい。若い歌声を聞くことで元気を受け取ることが出来るのです。

和太鼓クラブのリズミカルな演奏



そろいの服装1年生



## ワールドシリーズでの松井選手の活躍に拍手

アメリカ大リーグのワールドシリーズでヤンキースの松井選手の活躍は目を見張るものがありました。渡米して7年目にしてチームは松井選手が夢に見たワールドシリーズに出場し、全米一の栄光を手にしたばかりでなく、松井選手は MVP(最優秀選手)に選ばれました。

ワールドシリーズ6試合での成績は、13打数8安打で6割1分5厘、3本塁打、8打点という神がかり的な活躍です。6試合といっても、3試合は指名代打制のない試合でしたから、ひざに故障のある松井選手は代打としての出場となります。その中で、3本もホームランを打つのですからもの凄い成績です。松井選手の活躍は日本中を熱狂の渦に巻き込みました。誰が松井選手のこのような活躍を予想したのでしょうか。

実は、松井選手は今シーズン、大変な年でした。以下新聞記事から引用します。

※(11月7日の山日新聞21面より)昨年手術を受けた左ひざは悲鳴を上げていた。5月、松井は極度の打撃不振に陥っていた。軸となる左脚で踏ん張れず、イメージ通りにバットが出ない。緩急に崩され、凡打を重ねた。「ひざの状態が打撃に影響していた。精神的なものより、実際の動きの部分で影響があった。」と明かす。5月は打率2割4分1厘、6月上旬には18打席安打が出ず「打席内で余裕がない」と漏らした。

2006年まで日米通算で1768試合に連続出場した「鉄人」ではない。本人もそのことはよく分かっていた。敵地での交流戦があった6月、監督が守備に就かせることを示唆すると、松井は会見で前向きな発言をしながら、クラブハウスでは「ないと思うよ。」とつぶやいた。(中略)

地区優勝を決めた日、「首の皮1枚でつながっていた時期もあった。戦列を離れず1年間プレーできたことが何より良かった。」と振り返った。紙一重で復活を勝ち取った実感がこもっていた。(以上引用)

確かに今シーズンの一時期、もう松井選手はだめか、そのように多くの野球ファンは思ったことでしょう。ヤンキースとの契約も今年限り、来シーズンは日本に帰ってくるのかな。日本で松井選手の豪快なホームランを見ることが出来る嬉しさの反面、松井選手のように体格に恵まれた打者でも大リーグでは通用しないのか、そんな寂しい思いもありました。(大リーグで活躍する日本人選手でも、イチロー選手は全身バネのような軽快な動きで安打を量産するのが魅力です。ゴジラというニックネームの松井選手には豪快なホームランという別の魅力があります)

今シーズンは、ファンばかりでなく松井選手自身もケガが続き、満足にバットが振れず、安打が出ず、ベンチを温める日が続く、いつ戦力外通告を受けるか、とびくびくした日もあったことでしょう。

それが、地区シリーズに勝ち、リーグ優勝決定シリーズに勝ち、夢にまで見たワールドシリーズへの出場です。そして、その晴れの場での大活躍。誰がこのような展開を予想したでしょう。この松井選手の活躍は私たちに色々なことを教えてくれます。○もうダメか、と思うような大きな困難の先に、信じられないような栄光が待っていることがある、という運命の不思議、人生の不思議です。

○だから、どんな時もあきらめず、全力を尽くすことが大切なのでしょう。

来シーズン、松井選手がどのチームでプレーするか分かりませんが(ヤンキースとの契約は微妙なようです)シリーズで見せた素晴らしい打撃で、今度はホームラン王とか打点王のタイトルを取り、また日本中を沸かしてもらいたいものです。